



## 都市型キャンプ式住居



森や野原でキャンプするように、心地よい空白のなかに自由に生活を足していくような自由さをもった住まいを、都市の中でもつくりたいだろうか。

あっけらかんと外部に開いた開放的な場所と、上方に持ち上がった屋根裏のような籠った場所をもつ本住宅は、個室をつくらず自然光が差し込む豊かなワンルームと、小さくても人が集えるオープンな場所をつくり、住人がこの2つの空間を自由に横断しながら、暮らすことで、都市の中でキャンプするようにおおらかに暮らすことができる住宅です。

小さな土地に部屋を詰め込み「室」を作り込むことを価値とするのではなく、最低限に分けた広々とした空間に、豊かな光や風をといった自然の「質」を取り入れ、街や人との距離を緩やかな仕切りや自らの創作で調整しながら暮らす。

そうした住まい手自らが住まいの環境をアレンジできるキャンプのような幅をもった住まいが、新しい都市居住の価値を広げると考えました。

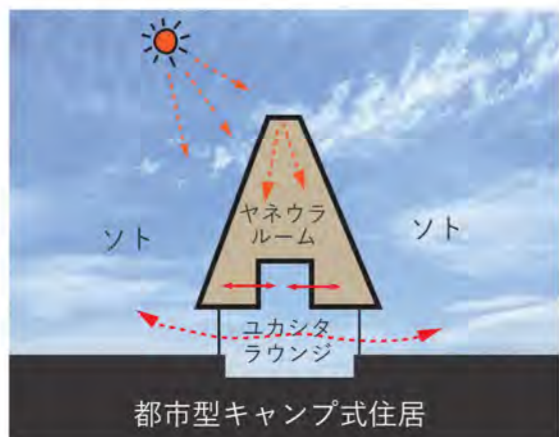


### 室ではなく「質をつくる」住居

木造在来軸組工法の2階建を提案します。容積一杯の床や小分けの部屋(室)はつくらず、通常裏側にある屋根裏や床下といった空間が肥大化したような「異なる質をもった場所」をつくります。



密集地の3層住宅の構成

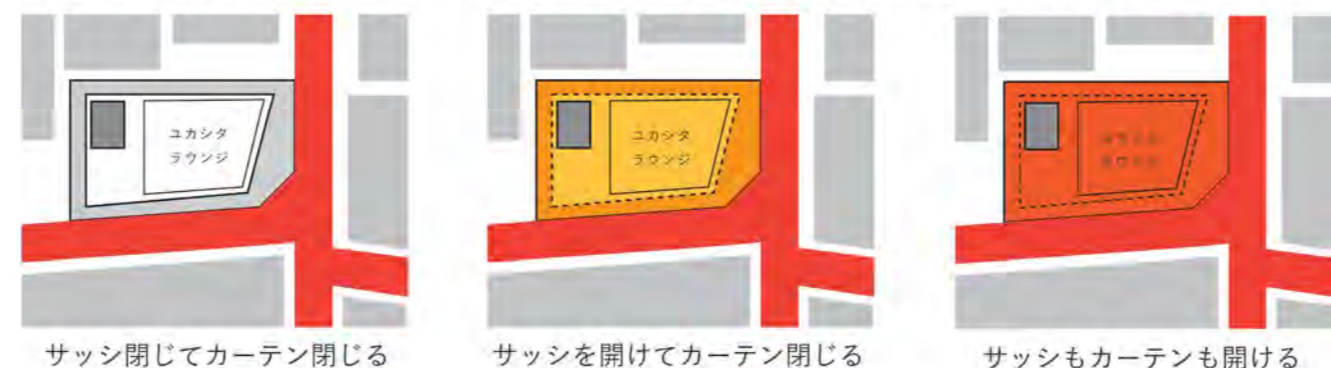


都市型キャンプ式住居

**「ユカシタラウンジ」**  
サッシを開ければ、ダイレクトに外の空間とつながります。地面より少し窪んだレベル差が、適度に居場所の心地よさをつくり、住人や周囲の人も含め自然と集い生まれるような場所をつくります。

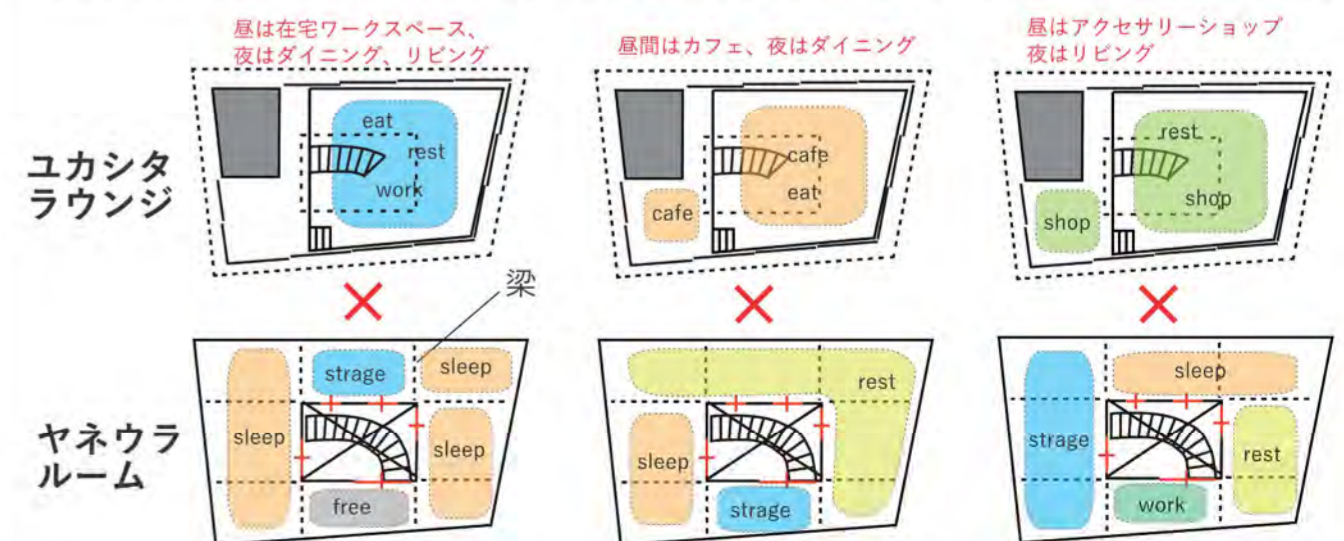
**「ヤネウラルーム」**  
構造体が表しとなった、木の温もりに包まれた場所。6m強の高天井から天窓を通じて自然光が入ります。陽の動きと共に、室内の様相も変化し心地よい籠り感が都市との適度な距離をつくります。

### 単純な開閉操作で「距離感を調節」できる住居



### 多様な住み方が「カスタマイズできる」住居

社会の変化に応じて都心の暮らしは多様化している。家で仕事する、友人と集う、小商いをする、寝る、子育てする、収納する、...。本住宅では、そうした部屋名すらつけられないような多様な暮らし方を受け入れられる器として、可動サッシやカーテン、間仕切り用の梁など、生活をアレンジできるしかけを用意します。



ヤネウラルームには、構造梁を利用したカーテンを設けることができ、将来的に壁をつくり囲まれた部屋をつくることも可能です。1Fのユカシタラウンジの使い方との組み合わせで様々なバリエーションをもった暮らしに対応することができます。